

Dorothee Alfermann 博士 (ライプツィヒ大学教授) 招待講演 青年期の競技者のキャリア発達に影響を及ぼす社会的要因

三木ひろみ

Invitation lecture: Social influences on sport career development in adolescence

MIKI Hiromi

Alfermann 博士は、ライプツィヒ大学教授としてスポーツ心理学の研究と教育だけでなく、同大学の女性学・ジェンダーセンター長として、ドイツのジェンダー教育の研究と進展に貢献している。本稿では、平成 15 年 10 月に筑波大学栗原基金の援助を得て Alfermann 博士が来日して行った招待講演の内容を紹介する。青少年のスポーツキャリア発達に関する講演とあって、学内・学外でスポーツ指導をしている本学教員 15 名に加えて、コーチングやスポーツ心理学を専攻する大学院生 8 名が参加し、講演の後も英語と日本語をまじえて熱心な議論が続けられた。

1. 緒言

青少年のスポーツへの参与を左右するのは、本人の要因だけでなく、本人の社会的エージェントである両親、コーチや指導者、友人である。John Salmela は、才能豊かな競技者の回顧的レポートに基づいて、3 つのキャリア発達段階、参入期、発展期、熟達期と、引退後からなるキャリア発達段階の記述的モデルを構築している。しかし、このモデルでは、残念ながらスポーツキャリア発達に及ぼす友人の影響は考慮されていない。友人の影響については、十分に研究されているとはいえ、スポーツを始める時に特に重要な役割を果たすということが分かっているくらいである。例えばレジャースポーツの場合、どのくらいスポーツ活動に参加しているかは、友人が活動的かどうかということと関連性が強い。競技者にとっての友人の影響については、これまでの縦断的研究の結果、チームスポーツ競技者の 3 分の 1 が友人に勧めら

れてチームに入っていること、ドイツの元トップアスリートを対象とした研究では、競技者の約 4 分の 1 の異性の友人は、同じく競技者であることがわかっているくらいである。

2. 本研究の目的

青少年のスポーツキャリア発達に関する本研究では、競技者の社会化を促すエージェントであるコーチと親に注目し、以下の点を明らかにすることを目的とした。

- 1) スポーツキャリア発達に対して、本人、親、コーチはどんな影響力を持っているのか。
- 2) パフォーマンスが向上している競技者は、停滞している競技者よりも、コーチや親の注目やサポートを多く受けるのか。

さらに具体的に、次のような下位目的を設定した。

コーチのリーダーシップ行動は、競技者がどのキャリア発達段階にいるかによって異なるのか。

競技者がキャリア移行することによって、変わるのか。

競技者のキャリア段階やキャリア移行によって、親のサポートは変わるのか。

親はどのような種類のサポートを提供するのか。

母親と父親ではサポートに違いがあるのか。

本研究では、Salmela(1994)が規定した 3 つのキャリア段階、参入期、発展期、熟達期のいずれかの段階にいる競技者を調査対象とした。この 3 つ

のキャリア段階のいずれに位置しているかは、競技のレベル（例えば、地方レベル、全国レベルなど）、パフォーマンス、年齢など様々な要因によって同定した。

3. 方法

スポーツクラブに所属している若い競技者と、その親、指導者に研究への協力を依頼した。調査対象者は、2年間の間に3回、標準化された質問紙に回答した。

調査対象となった競技者のスポーツ種目は、水泳、陸上競技、フィールドホッケー、ハンドボール、テニスであった。

第1回目の調査では、260名（女子152名、男子108名）の競技者と、その親と指導者のデータが収集された。年齢の幅は10歳から18歳、平均年齢は13.54歳（SD=2.22）、スポーツ歴は平均5.34年（SD=2.68）であった。彼らは、平均で週8.33時間（SD=6.26）、熟達期の競技者は週25時間以上の練習をしていた。

第1回調査時には260事例のデータを収集したが、その後、第2回調査時では151事例、第3回調査時には58事例のデータとなった。

キャリア移行については、1年または2年間の調査の間にパフォーマンスを向上させ、より高いキャリア段階に進んだ競技者を「順調な移行（successful transition）」、同じ段階に留まっていた競技者を「停滞」とした。

調査対象となったコーチは、第1回調査時では42名（男子24名、女子18名）、年齢は17歳から62歳、平均年齢35.14歳（SD=11.48）だった。

コーチ行動を測るために、Leeらが青少年を対象として開発したイギリス版スポーツリーダーシップ尺度（Leadership Scale for Sport）のドイツ語版（5段階評定）を作成し、予備テストを行った。その結果、説明と教示、民主的スタイル、肯定的フィードバック、ソーシャルサポート、の4つの下位尺度の妥当性が検証された。

4. 結果および考察

1) コーチの行動

第1回調査のデータを横断的に分析し、キャリア段階が異なる競技者がコーチの行動をどう捉えているかを比較した。その結果、キャリア段階が異なっても、青少年の競技者から見たコーチの行

動に違いはなかった。競技者から見たコーチとコーチ自身の認識を比べてみて、異なっていたのは、ソーシャルサポートだけであった。すなわち、コーチ自身は、競技者が感じている以上に、競技者をサポートしていると思っていた。

第1回と第2回調査のデータを分析した結果、時間経過の要因と競技者のキャリア段階の要因との間に有意な交互作用が見られた。すなわち、最初の調査から1年後に順調にキャリア移行していた競技者は、以前よりもコーチの指導の量が増えたと報告していた。これに対して、キャリアが停滞したままの競技者は、コーチの指導が減ったと報告していた。この結果は、順調にキャリア移行した競技者の方が、停滞している競技者よりも、コーチから注目されていることを示している。

第1回、第2回、第3回調査の調査データを分析した結果、1年後だけでなく、2年後も同様に、順調にキャリア移行した競技者は、停滞している競技者よりも多くコーチの指導を受けていると報告していた。加えて、順調にキャリア移行した競技者の方が、コーチからの肯定的なフィードバックをよく覚えていた。

縦断的分析の結果から、順調にキャリアを伸ばしていった競技者と停滞している競技者から見たコーチの指導行動に、有意な差が見られた。順調にキャリアを伸ばしていく競技者は、当初からコーチに注目されていると言える。

しかしながら、縦断的研究の時間経過とともに調査対象者が減っていったため、このデータ分析と考察には限界がある。また、競技者に対する質問紙から得られたデータであり、トレーニング中にコーチが実際にはどう行動していたのかは分からない。したがって、ここで得られた結果は、コーチ行動についての競技者の主観的な認識であり、実際に観察した場合のコーチの行動とは違っている可能性がある。

2) 親が果たす役割

親の行動は、若い競技者にとって様々な意味を持つ。すなわち、親の行動は、モデリング、期待、肯定的・否定的フィードバック、プレッシャー、指導、励ましといった側面を持ち、若い競技者のソーシャルサポート源となっている。

第1回調査の対象となった競技者は、347名（女子206名、男子141名）、母親262名、父親215名であった。競技者のスポーツ種目は水泳、テニ

ス、ホッケー、ハンドボール、陸上、平均年齢は 13.34 歳 (SD= 2.79) スポーツ歴は平均 5.09 年 (SD=2.79) であった。

競技者のうち第 2 回調査の対象として残っていたのは 178 名だった。これらの競技者は、4 名が競技を始めたレベル (参入期) のまま、競技開始レベルから発展期へとキャリア移行した者が 55 名、発展期に在ってそのままそこに留まっている者が 91 名、発展期から熟達期へとキャリア移行した者が 6 名、熟達期に在ってそのまま留まっている者が 22 名であった。

まず、親のソーシャルサポートを測定するために、親のスポーツ関与調査票 (Lee & McLean, 1997) のドイツ語版を作成し、これに道具的サポート尺度を加えた。各下位尺度の α 係数は、肯定的な情緒的サポートが $\alpha = .78 - .81$ 、プレッシャーが $\alpha = .63 - .80$ 、情動的サポートが $\alpha = .83 - .86$ 、道具的サポートが $\alpha = .68 - .71$ であった。

まず、第 1 回調査時に参入期レベルだった競技者、発展期レベルにいた競技者、熟達期レベルにいた競技者が感じていた親の関与、これら 3 つのキャリア段階にいる競技者の母親が自覚している関与、父親が自覚している関与を比較した。その結果、キャリア開始段階にいる競技者は、発展期や円熟期にいる競技者よりも、親の関与を強く感じていた。また、彼らの親もそのように関与していることを自覚していた。発展期や円熟期にいる競技者は、キャリア開始期の競技者に比べて、親からの情緒的サポートを少ないと感じていたが、親自身は競技者が感じている以上の情緒的サポートを与えていると思っていた。円熟期の競技者は、親からの情動的サポートやプレッシャーは少ないと感じているが、父親は競技者が思っている以上に情動的サポートやプレッシャーを与えていると思っていた。

また、第 1 回調査時に参入期レベルだった競技者、発展期レベルにいた競技者、熟達期レベルにいた競技者が感じている父親の道具的サポートと母親の道具的サポートを比較した結果、道具的サポートに関しては、親の性差や競技者のキャリア段階による差異はみられなかった。

次に、第 1 回と第 2 回調査の結果から、順調にキャリア移行した競技者と停滞したままの競技者を同定し、競技者が感じている親の関与、母親が自覚している関与、父親が自覚している関与、父

親と母親の道具的サポートを比較した。親からのプレッシャーに関しては、順調にキャリア移行した競技者と停滞したままの競技者との差異はなく、競技者の認識と親の自覚との違いもみられなかった。しかしながら、情緒的サポートに関しては、キャリアが停滞している競技者の方が、順調にキャリアを伸ばした競技者よりも情緒的サポートが少ないと感じていたのに対して、両者の親は同じくらいの情緒的サポートを提供していると答えていた。道具的サポートについては、やはり親の性差や競技者のキャリア移行の成否による差異はみられなかった。

調査対象となった競技者の中には、第 1 回調査の後に競技をやめていった者もいた。そこで、競技をドロップアウトした者と競技を続けた者の情緒的サポートと道具的サポートを比較した結果、ドロップアウトした者が感じていた情緒的サポートと道具的サポートは、継続した者より少なかった。

以上の結果から、親は、特に子どもがスポーツキャリアに参入した段階でソーシャルサポートを提供していると言える。この段階で提供されるのは、コーチング行動でもある情動的サポートや、賞賛や理解といった肯定的な情緒的サポートだけでなく、プレッシャーも与えていることが分かる。また、情緒的サポートは、どのキャリア段階にいる競技者にとっても、一番重要なサポートであると言える。

また、順調にキャリア移行している競技者と停滞している競技者を比べると、順調にキャリアを伸ばしている競技者の方が、親からの情動的サポートを多く受けていた。競技からドロップアウトした競技者は、継続している競技者に比べて、親がそれほど情緒的にサポートしてくれていなかったと感じていた。競技者のキャリアやキャリア移行の違いに左右されなかったサポートは、道具的サポートであった。

親の役割について、母親と父親を比較してみた結果、両者に違いがあることが分かった。母親は、自らが情緒的サポート源と道具的サポート源であると自覚しており、父親は、自分が子どものコーチ、すなわち情動的サポート源であり、子どもにプレッシャーを与える役割だと自覚していた。

5. 結論

本研究の結果をまとめ、これらの結果を現場での実践、すなわち親やコーチ、競技者へのカウンセリングにどのように活かせるのかを考えてみる。

まず、若い競技者にとって親のサポートは非常に重要であると言える。しかしながら、このサポートは時間とともに変化する。親からの道具的サポートや情動的サポートは時間とともに減っていくが、親からの情緒的サポートはどの段階でも重要なサポートである。また、少しであれば、ある程度のプレッシャーは競技者のキャリア移行に有効であると言える。

親と言っても、父親と母親のサポートは違い、母親はより情緒的、道具的サポートを、父親は情動的サポートやプレッシャーを与えている。

コーチは、親に邪魔されたりコントロールされたりしていると感じている。しかし、コーチは、親の影響を受け入れ、競技者に対する親の道具的サポートや情動的サポートを取り込むべきである。一方で、競技者の親は、積極的に子どもやコー

チに協力すべきであり、コーチの権限を認めるべきである。

親のサポートが、時間経過や子どものキャリア移行に伴ってどのように変化するかを明確に把握するためには、5年以上の長期的な縦断研究が必要である。今後はこうした縦断研究に取り組むとともに、競技者の性差や、親の性差との関係についても検討したい。

参考文献

1. Lee, M. J. & McLean, S. (1997). Sources of parental pressure among age group swimmers. *European Journal of Physical Education*, 2, 167-177.
2. Salmela, J. H. (1994). Phases and transitions across sport careers. In D. Hackfort (Ed.), *Psycho-social issues and interventions in elite sports* (pp. 11-28). Frankfurt: Lang.
3. Wurth, S., Lee, M. J. & Alfermann, D. (in press 2004) Parental involvement and athletes' career in youth sport. *Psychology of Sport and Exercise*, 5(1).